

3. 4 中学校 1・2・3年生（7） 指導の概略

IV. 先人の経験に学ぶ C. 語り継ぐ責任

指導する学年	中学校1-3年生	指導する時間	道 徳	指導する時数	1 時 間
目 標	津波の被害を乗り越えてきた先人の思いを知り、それを語り継ぐことの大切さを理解し、地域及び家庭での防災意識の高揚を図る。				
使用する資料	【写真-13】釜石市内にある石碑 【資料-14】生徒作文『語り伝えよ』 【資料-15】シムル島の言い伝え 【print-47】語り継ぐ				

1. 導入

(1) 津波に関する石碑を見せ、家訓や家に伝わる伝承などがあるか、あるとすればどんな内容か発表させる。

【写真-13】釜石市内にある石碑

(2) 当時の人々は、どんな気持ちでこの石碑を建てたのか考えさせる。

2. 展開

(1) 生徒作文「語り伝えよ」を読む。

【資料-14】生徒作文『語り伝えよ』

(2) 生徒作文を読んで、印象に残ったことをあげる。

(3) 祖父は、津波を体験していないのに、語り継いでいるのはなぜかを考える。

(4) 2004年インド洋津波のときに、古い言い伝えのおかげで、犠牲者がほとんどでなかった例を紹介し、過去の体験を語り継いでいくことの意味を理解する。

【資料-15】シムル島の言い伝え

3. まとめ

(1) 教訓のあるこの地域で私たちがしなければならないことを考える。

(2) 感想などを記入し、発表する。

【print-47】語り継ぐ

4. 確認

(1) 過去の被災経験を語り伝えていくことの意味を知ることができたか？

関連する
教科・行事等

国語等で関連内容について作文する
地域の避難訓練への参加

3. 4 中学校 1・2・3年生（7） 指導の注意点

1. 導入

- (1) 学区内に石碑がある場合は、その写真を見せて、津波に関して家族や地域の方から聞いた話の内容を発表させる。
- (2) 明治、昭和三陸大津波の被害状況を説明し、当時の人々がどんな思いでこの碑を建立したのか考えさせる。



【写真-13】
釜石市市内にある石碑

2. 展開

- (1) 生徒作文「語り伝えよ」を読む。
※平成20年度に、両石地区に住む中学校3年生が書いた作文。
※両石地区は、明治三陸大津波で900人中780人余りが亡くなり、大きな被害を受けた。作者の祖父は、明治・昭和三陸大津波の直接の被害を受けてはいないが、孫にその経験を語り伝えている。その理由は何かを考える。
- (2) 生徒作文を読んだ感想を交流する。
- (3) 津波を体験していない祖父が、なぜ津波の経験を孫に語り接いでいるのかを考える。
- (4) 全世界で23万人以上の死者・行方不明者がでたインド洋津波において、言い伝えを守り、みんなで避難することによって、ほとんど犠牲者でなかったシムル島の話を紹介し、過去の体験を語り継いでいく意味を理解する。

語り伝えよ
山崎 尚野

【資料-14】
生徒作文『語り伝えよ』

2004年インド洋津波から、古い言い伝えが島民救う

インド洋津波の死者・行方不明者は、全世界で23万人以上
しかし、震源からわずか60キロに位置するインドネシア・シムル島では、
住民約6万5,000人のうち津波による死者は、たった6人

シムル島は、1907年に大津波を体験し、
「海水が引いたら高台に逃げろ」
という教訓が伝統的な教えとして
住民の間に語り継がれていた。
(この教えを「スモン」と呼んでいる)

インド洋津波が襲来したときにも、
住民らはこの古い伝えに従い、
水が引いた時、すぐに丘へ避難したため、
死者が少なかった。

【資料-15】
シムル島の言い伝え

3. まとめ

- (1) 教訓のあるこの地域で私たちがしなければならないことを考える。
→過去の経験を語り伝えることの大切さを理解させる。
- (2) 感想などを記入し、発表する。